2016.11.19 GEWANDHAUS 龍ヶ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

没後120年 第4回“ブルックナーの世界”／今年最後のピアノを聴く コチシュとリンパニー

プログラム

今日は今年、没後120年に当たる音楽史上最も重要な交響曲作曲家、ブルックナーを特集するシリーズの第4回目、最終回をお送りします。ブルックナーを挟んでピアノ作品を合わせてお聴きいただきます。

交響曲第9番は、40歳の頃から交響曲を書き始めたブルックナーの未完に終わった最後の交響曲で、1887年に着手され、1894年に第3楽章までが完成、死の直前まで終楽章のスケッチに取り組んでいましたが、完成できなかった場合は、「テ・デウム」を終楽章に用いる事を考えていたと言われています。未完にもかかわらず、高度の完成度を示していて、第3楽章を聴き終えた後ではこれに続く音楽は必要ないと思わせる程です。崇高で荘厳な響きは壮大な宇宙を連想させるような輝きに満ちた傑作です。「テ・デウム」は交響曲第7番と前後して1884年に完成されました。オルガン的な響きを持ち荘厳さと力強さに溢れたブルックナーの声楽作品を代表するの名曲です。交響曲第5番は、1878年に最終稿が完成された中期を代表する傑作です。第2楽章にみられるコラール風の美しい旋律、壮大なフーガを含んだフィナーレなど、ソナタ形式と体位法（複数の旋律が同時に流動して調和させる技法）が融合された斬新さとパワーは全交響曲の中でも独特の魅力を放っています。ブルックナー特集いかがでしたでしょうか。“ブルックナーは苦手”という方も多いようですが、はまると抜け出せないのもまた、ブルックナーです。是非“ブルックナーの世界”にお立ち寄りください。

去る11月6日、ハンガリーの名ピアニスト、**ゾルタン・コチシュ（1952.5.30～2016.11.6）**が亡くなりました。アンドラーシュ・シフ、デジェー・ラーンキと共に「ハンガリーの三羽烏」と呼ばれ、国際的に活躍、80年代からは指揮者としても活動していました。今日はリヒテルと共演したシューベルトの佳曲をお聴きください。今年生誕100年を迎えたのがイギリス出身の名ピアニスト**モーラ・リンパニー（1916.8.18～2005.3.28）**です。来日公演で聴かせた彫りの深いピアノは、記憶に刻まれる感動的な演奏でした。今日は、ショパンをごゆっくりお楽しみください。（中川）

＊＊＊＊＊＊＊

アントン・ブルックナー（1824～1896）：
交響曲第9番ニ短調～第1楽章から、第3楽章
ギュンター・ヴァント指揮北ドイツ放送交響楽団
（2000.10.14　東京オペラシティ・コンサートホールでのLive）

テ・デウムハ長調～第2曲、第3曲、終曲
ヘレン・ドナート（ソプラノ）／マリヤーナ・リポヴシェク（メゾ・ソプラノ）
キース・ルイス（テノール）／ヤン・ヘンドリック・ロータリング（バス）
ズービン・メータ指揮バイエルン放送交響楽団／バイエルン放送合唱団
（1992.1.17　ミュンヘン、ヘルクレス・ザールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

フランツ・シューベルト（1797～1828）：
四手のためのピアノ・ソナタ変ロ長調D.617～第2楽章、第3楽章
ゾルタン・コチシュ（ピアノ）／スヴャトスラフ・リヒテル（ピアノ）
（1977.6.21　ホーエネムス城、騎士の間でのLive）

フレデリック・ショパン（1810～1849）：
24の前奏曲op.28～第8番嬰ヘ短調／第15番変ニ長調「雨だれ」／第24番ニ短調
モーラ・リンパニー（ピアノ）
（1992.4.3　サントリーホールでのLive）

アントン・ブルックナー（1824～1896）：
交響曲第5番変ロ長調～第2楽章から、第4楽章
クリスティアン・ティーレマン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
（2013.8.10　ザルツブルク祝祭大劇場でのLive）

★ホームページアドレス　http://www.bekkoame.ne.jp/~hippo/gewandhaus/